教　科	商　　業	科　目	課題研究	単位数	3
学　年	3　　年	類　型	情報ビジネス科		

教科書（出版社）	課題研究の手引き（松山商業高校）
副教材（出版社）	
授業の概要	財務諸表に関する基礎的な知識と技術の習得をする。また、利害関係者に会計情報を提供する能力と態度、及び、提供された会計情報を活用する能力と態度を身に付ける。
授業の目標	1　財務諸表の作成に関する知識と技術を習得する。 2　財務会計の意義や制度について理解する。 3　会計情報を提供し、活用する能力と態度を身に付ける。

年間学習計画		学習内容（単元・項目）	学　習　目　標
	1学期	第１編　財務会計の基礎 第２編　貸借対照表	・資産、負債、純資産の種類と会計処理及び財務諸表の作成をとおして、企業の財政状態を適切に報告するための基礎的な知識と技術を習得する。
		第３編　損益計算書	・損益計算の意味と損益の区分、収益・費用の認識と測定及び損益計算書の作成をとおして、企業の経営成績を適切に報告するための基礎的な知識と技術を習得する。
	2学期	第４編　その他の会計処理	・役務収益・役務原価、外貨建て取引、税効果会計など会計に関する新しい知識を習得する。
		第５編　財務諸表の作成	・財務諸表分析の意義及び財務諸表の見方について学び、財務諸表を活用するための基礎的な知識と技術を習得する。 ・連結財務諸表の目的と連結の範囲及び連結財務諸表の基礎について学び、連結財務諸表に関する基礎的な知識と技術を習得する。
		発展学習	・日商簿記検定の問題や全商会計実務検定の問題をとおして、知識の深化と技術の慣熟を図る。
	3学期	発展学習	・日商簿記検定の問題や全商会計実務検定の問題をとおして、知識の深化と技術の慣熟を図る。 ・企業の経営者や社会人としての倫理観等を身に付ける。 ・課題研究報告書を作成し、発表する。

観点別評価	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	財務会計に関する基礎的・基本的な知識と帳簿作成技術、各種の数値を算出する方法を身に付け、それらの知識を活用し、適正な会計帳簿を作成することができる	会計に関する法規や基準の変更に対応し、適切な財務諸表を作成したり、利害関係者にとって有用性の高い分析をしたりするなど、主体的な判断を基に正確な作業ができる。	財務会計に関する学習に興味・関心を持ち、授業や課題に対して意欲的に取り組むなど、知識の深化と技術の向上に努めている。

備考	学期ごとに３つの観点に基づき観点別学習状況を、Ａ・Ｂ・Ｃの３段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。

教　科	商　　業	科　目	課題研究	単位数	3
学　年	3　　年	類　型	情報ビジネス科		

教科書（出版社）	課題研究の手引き（松山商業高校）
副教材（出版社）	
授業の概要	製造業における工業簿記の記帳法と、原価計算の基本的な考え方、知識と技術を習得する。また、原価計算によって得られる情報を効果的に活用するための能力と態度を育てる。
授業の目標	1　原価計算に関する基本的・基礎的な知識と技術を身に付ける。 2　製造業において行われる取引・活動を計数的に把握し、活用する学習を通して、原価に対する理解を深める。

年間学習計画		学習内容（単元・項目）	学　習　目　標
	1学期	第Ⅰ編　原価と原価計算 第１章　原価の概念 第２章　原価計算の特色としくみ 第Ⅱ編　原価の費目別計算 第１章　材料費の計算 第２章　労務費の計算 第３章　経費の計算 第Ⅲ編　原価の部門別計算と製品別計算 第１章　個別原価計算 第２章　部門別個別原価計算 第３章　総合原価計算	・原価の概念、原価計算の目的、製造業における簿記の特色としくみについて学び、原価計算の概要について理解する。 ・材料費、労務費及び経費の計算と記帳をとおして、原価の費目別計算を行うための基礎的な知識と技術を習得する。 ・個別原価計算、部門別個別原価計算、総合原価計算について学び、原価の部門別計算と製品別計算の行うための基礎的な知識と技術を習得する。
	2学期	第Ⅳ編　内部会計 第１章　製品の完成と販売 第２章　本社・工場会計 第３章　製造業の決算 第Ⅴ編　標準原価計算 第１章　標準原価計算の目的と手続き 第２章　原価差異の原因別分析 第Ⅵ編　直接原価計算 第１章　直接原価計算の目的と財務諸表の作成 第２章　短期利益計画への活用	・製品の完成・販売と本社・工場間の取引の記帳方法及び製造業の決算について学び、製品の完成・販売に関する会計処理と決算を行うための基礎的な知識と技術を習得する。 ・標準原価計算の目的と手続き、原価差異の原因分析及び損益計算書の作成をとおして、標準原価計算を行うための基礎的な知識と技術を習得する。 ・直接原価計算の目的と損益計算書の作成及び短期利益計画について学び、直接原価計算の有用性について理解する。
	3学期	総合問題	・演習を通して、知識の深化と技術の慣熟を図る。

観点別評価	知識・技術	知識・技術	思考・判断・表現
	原価計算に関する会計処理及び原価情報の活用に関する理論的な知識と技術にとどまらず、実務と関連付けられビジネスの様々な場面で役に立つ知識と技術が身についている。	原価計算をはじめてとした様々な知識、技術などを活用し、原価計算に関する理論、企業活動の流れなど科学的な根拠に基づいて工夫してより良く課題に対応する力が身についている。	他者と信頼関係を構築して積極的にかかわり、原価の費目別計算、部門別計算、製品別計算などによる原価情報の提供と効果的な活用に責任を持って取り組む態度が身についている。

備考	学期ごとに３つの観点に基づき観点別学習状況を、Ａ・Ｂ・Ｃの３段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。

教　科	商　　業	科　目	課題研究	単位数	3
学　年	3　　年	類　型	情報ビジネス科		

教科書（出版社）	課題研究の手引き（松山商業高校）
副教材（出版社）	
授業の概要	簿記の基礎的・基本的な技術を身に付け、ビジネスの諸活動を計数的に把握し、適切に処理するとともに、その成果を的確に表現する。
授業の目標	1　企業において発生する取引を仕訳し、勘定科目を経て、決算に至る簿記の基本的な仕組みについて理解する。 2　帳簿や財務諸表を通して、ビジネスの諸活動を計数的に把握する能力と態度を身に付ける。

年間学習計画		学習内容（単元・項目）	学習目標
	1学期	第Ⅰ編　簿記の基礎 第Ⅱ編　取引の記帳と決算Ⅰ	・簿記の意味、目的、役立ちなどを理解させ、学習の心構えを養う。 ・資産・負債・純資産・収益・費用のそれぞれの意味と種類を理解する。 ・現金、当座預金、その他の預金の意味を理解する。 ・３分法による商品売買損益の計算法と記帳法を習得する。 ・第Ⅱ編で学習したいろいろな勘定科目の意味を理解し、正しい仕訳ができるようにする。
	2学期	第Ⅲ編　取引の記帳と決算Ⅱ 第Ⅳ編　帳簿・伝票 第Ⅴ編　取引の記帳と決算Ⅲ	・約束手形と為替手形の違いを理解させ、これらの手形の授受に伴う記帳法を理解する。 ・帳簿の種類と、帳簿組織およびそれらと分課制度との関係、帳簿種類の立案について理解する。 ・普通の売買取引と対比させながら、それぞれの取引の特徴を十分理解する。
	3学期	第Ⅵ編　本支店の会計 発展編　株式会社の記帳	・支店会計の意味を理解させ、本支店間および支店相互間の取引の記帳法を理解する。 ・未達事項の意味と、その整理法を理解させる。 ・株式会社と個人企業との記帳方法の違いについて理解する。 ・繰延資産の意味と種類について理解する。 ・剰余金の処分、社債、税金の記帳について理解する。

観点別評価	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	簿記について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けられた。	取引の記録と財務諸表の作成方法の妥当性と課題を見いだし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養うことができた。	企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力の向上を目指して自ら学び、適正な取引の記録と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組む態度を養うことができた。

備考	
	３つの観点に基づき、学期ごとに100点法で評価し、学年末には各学期の評価を平均して総合的に評価する。観点別学習状況は、学期ごとにＡ・Ｂ・Ｃの３段階で評価し、学年末には各学期の評価を平均し総合的に評価する。

教　科	商　　業	科　目	課題研究	単位数	2
学　年	3　　年	類　型	情報ビジネス科		

教科書（出版社）	課題研究の手引き（松山商業高校）
副教材（出版社）	ＩＴワールド（インフォテックサーブ）
授業の概要	企業活動を円滑に行うために、今日においてはソフトウエアを活用することが必要不可欠となっていることから、活用するために必要な能力・態度を身に付ける。
授業の目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業において情報を適切に扱うために必要な資質・能力を育成することを目指す。

年間学習計画		学習内容（単元・項目）	学　習　目　標
	1学期	第１章　ハードウェア １節　コンピュータの基本構成 ２節　コンピュータのデータ表現 第２章　情報処理システム １節　情報処理システム対話処理システム 第３章　ソフトウェア １節　ソフトウェアの分類	・コンピュータの種類について把握させる。 ・２進数表記の必要性を理解させるとともに、10 進数等との変換の仕方を理解する。 ・情報処理システムは、利用方法や機器構成によってさまざまな形態に分けられることを理解する。 ・故障することを前提としてシステムの重要度を考慮し、システム構成を考える必要性を理解する。 ・コンピュータを効率的に利用できるように、人間とコンピュータの間を取り持つものであることを理解する。
	2学期	３節　プログラム言語と言語プロセッサ 第４章　データベース １節　データベースの概要 ２節　ＳＱＬ ３節　いろいろなデータベース 第５章　ネットワーク	・プログラム言語は、コンピュータに仕事を支持するプログラムを作成するための言語であることを理解する。 ・データベースは、データを集中して一括管理する方式のことであることを理解する。 ・ＤＢＭＳとは、データベースを効果的に活用するためにデータベースソフトウエアを活用するための知識と技術を身に付ける。 ・ＳＱＬを用いた汎用的なデータベースの操作方法について理解する。
	3学期	総合練習	・情報システムの開発に関する基礎的な知識、技術について実務に即死して理解するとともに、データベースソフトウエアによる情報システムの開発と関連付けて理解を深める。

観点別評価	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	企業活動におけるコンピュータの活用について、実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。	企業活動におけるプログラミング活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な子根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。	企業活動を課改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動にお ICT を最大に利用し、に主体的かつ協同的に取り組もうとしている。

備考	学期ごとに３つの観点に基づき観点別学習状況を、Ａ・Ｂ・Ｃの３段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに 100 点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。

教　科	商　　業	科　目	総合実践	単位数	2
学　年	3　　年	類　型	情報ビジネス科Ｂ類型		

教科書（出版社）	総合実践　－企業取引を学ぶ－　三訂版（実教出版）
副教材（出版社）	
授業の概要	1　これまでに学習してきた各科目の内容が、実際のビジネス活動でどのように関連しているかを実践的に学習する。 2　ビジネス活動に必要な知識・技術について、模擬実践を通して、一連の業務の中で体験的・一体的に学習する。
授業の目標	1　ビジネスに必要な基本的な知識・技術・態度を総合的に身に付け、それらを実際に活用できるようにする。 2　ビジネス社会の有機的な関連を実践的に理解し、その中で自分が担当する職務についての自覚を深める。

年間学習計画		学習内容（単元・項目）	学　習　目　標
	1学期	第１編　基礎編 第１章　総合実践の学習 第２章　ビジネスマナー 第３章　ビジネス文書の作成 第２編　実践編 第１章　模擬取引の学習 第２章　模擬取引 1　卸売商の業務	・学習の目標と心得、学習方法を理解する。 ・社会人に必要となる基本的なマナーや応対時のマナー、電話応対について理解し、技術を身に付ける。 ・ビジネス文書の役割と重要性を理解し、基本的な作成技術を身に付ける。 ・卸売商の開始業務、経営計画、仕入業務、販売業務、月末・期末業務等に必要な知識・技術・態度を実践的な演習をとおして学習する。
	2学期	2　倉庫会社の業務 3　保険会社の業務 4　運送会社の業務 5　銀行の業務 6　管理部の業務	・各会社（倉庫・保険・運送・銀行・管理部等）の開始業務、日常業務、月末業務について理解し、実践的な演習をとおして技術を身に付ける。 ・期末業務等に必要な知識・技術・態度を実践的な演習をとおして学習する。
	3学期	7　情報処理の業務	・総合実践におけるコンピュータの利用について、知識と技術を身に付ける。

観点別評価	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	記帳に必要な仕訳を理解し、諸帳簿・諸表の作成ができる。 帳票作成に必要な個々の金額の計算方法を理解している。 取引に関する証票に基づく起票、帳簿記入ができる。	会社の一員であるという意識を持ち、ビジネスマンとしてのマナー等に注意を払いながら行動することができる。 取引の流れや諸帳簿の起票および会計処理を正しく理解している。	ビジネスの諸活動に関心を持ち、自ら考えて積極的に活動することができる。 ビジネスに必要なマナーや知識を進んで習得しようとしている。

備考	学期ごとに３つの観点に基づき観点別学習状況を、Ａ・Ｂ・Ｃの３段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに 100 点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。

教　科	商　業	科　目	財務会計Ⅰ	単位数	2
学　年	3　年	類　型	情報ビジネス科Ｂ類型		

教科書（出版社）	新財務会計Ⅰ（実教出版）
副教材（出版社）	完全段階式標準簿記問題集　会計（東京法令出版）
授業の概要	財務諸表に関する基礎的な知識と技術の習得をする。また、利害関係者に会計情報を提供する能力と態度、及び、提供された会計情報を活用する能力と態度を身に付ける。
授業の目標	1　財務諸表の作成に関する知識と技術を習得する。 2　財務会計の意義や制度について理解する。 3　会計情報を提供し、活用する能力と態度を身に付ける。

年間学習計画		学習内容（単元・項目）	学　習　目　標
	1学期	第１編　財務会計の基礎 第２編　貸借対照表	・資産、負債、純資産の種類と会計処理及び財務諸表の作成をとおして、企業の財政状態を適切に報告するための基礎的な知識と技術を習得する。
		第３編　損益計算書	・損益計算の意味と損益の区分、収益・費用の認識と測定及び損益計算書の作成をとおして、企業の経営成績を適切に報告するための基礎的な知識と技術を習得する。
	2学期	第４編　その他の会計処理	・役務収益・役務原価、外貨建て取引、税効果会計など会計に関する新しい知識を習得する。
		第５編　財務諸表の作成	・財務諸表分析の意義及び財務諸表の見方について学び、財務諸表を活用するための基礎的な知識と技術を習得する。 ・連結財務諸表の目的と連結の範囲及び連結財務諸表の基礎について学び、連結財務諸表に関する基礎的な知識と技術を習得する。
		発展学習	・日商簿記検定の問題や全商会計実務検定の問題をとおして、知識の深化と技術の慣熟を図る。
	3学期	発展学習	・日商簿記検定の問題や全商会計実務検定の問題をとおして、知識の深化と技術の慣熟を図る。

観点別評価	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	財務会計に関する基礎的・基本的な知識と帳簿作成技術、各種の数値を算出する方法を身に付け、それらの知識を活用し、適正な会計帳簿を作成することができる。	会計に関する法規や基準の変更に対応し、適切な財務諸表を作成したり、利害関係者にとって有用性の高い分析をしたりするなど、主体的な判断を基に正確な作業ができる。	財務会計に関する学習に興味・関心を持ち、授業や課題に対して意欲的に取り組むなど、知識の深化と技術の向上に努めている。

備考	学期ごとに３つの観点に基づき観点別学習状況を、Ａ・Ｂ・Ｃの３段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。

教　科	商　　業	科　目	財務会計Ⅰ	単位数	3
学　年	3　年	類　型	情報ビジネス科A類型		

教科書（出版社）	財務会計Ⅰ　新訂版（東京法令出版）
副教材（出版社）	完全段階式標準検定簿記問題集会計（東京法令出版）
授業の概要	財務諸表に関する基礎的な知識と技術を習得する。また、利害関係者に会計情報を提供する能力と態度及び、提供された会計情報を活用する能力と態度を身に付ける。
授業の目標	1　財務諸表の作成に関する知識と技術を習得する。 2　財務会計の意義や制度について理解する。 3　会計情報を提供し、活用する能力と態度を身に付ける。

年間学習計画		学習内容（単元・項目）	学習目標
	1学期	第Ⅰ編　財務会計の基礎 第1章　企業会計の意義と役割 第2章　会計法規と会計基準 第3章　株式会社の設立・開業と株式の発行 第4章　当期純利益の計上と剰余金の配当・処分 第5章　社債 第6章　株式会社の税務 第Ⅱ編　貸借対照表 第1章　貸借対照表の概要 第2章　資産の意味・分類と評価	・利害関係者への適正な会計情報の提供及び、提供された会計情報の活用を行えるようにする。 ・企業会計の意義と役割、財務会計の機能及び会計法規と会計基準について学び、財務会計の概要について理解する。 ・資産、負債、純資産の種類と会計処理及び貸借対照表の作成をとおして、企業の財務状態を適切に報告するための基礎的な知識と技術を習得する。
	2学期	第3章　流動資産 第4章　固定資産 第5章　負債の意味・分類 第6章　純資産の意味・分類 第7章　貸借対照表の作成 第Ⅲ編　損益計算書 第1章　損益計算の意味と損益の区分 第2章　収益・費用の認識と測定 第3章　損益計算書の作成	・損益計算の意味と損益の区分、収益・費用の認識と測定及び損益計算書の作成をとおして、企業の経営成績を適切に報告するための基礎的な知識と技術を習得する。
	3学期	第4章　その他の財務諸表 第Ⅳ編　財務諸表活用の基礎 第1章　財務諸表の意義 第2章　財務諸表の見方 第Ⅴ編　連結財務諸表 第1章　連結財務諸表	・財務諸表分析の意義及び財務諸表の見方について学び、財務諸表を活用するための基礎的な知識と技術を習得する。 ・連結財務諸表の目的と連結の範囲及び連結財務諸表の基礎について学び、連結財務諸表に関する基礎的な知識と技術を習得する。

観点別評価	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	財務会計に関する基礎的・基本的な知識と帳簿作成技術、各種の数値を算出する方法を身に付けるとともに、経済社会において会計責任を果たすことの重要性について理解している。	会計に関する法規や基準の変更に対応し、適切な財務諸表を作成したり、利害関係者にとって有用性の高い分析をしたりするなど、主体的な判断を基に正確な作業ができる。	財務会計に関する学習に興味・関心を持ち、授業や課題に対して意欲的に取り組むなど、知識の深化と技術の向上に努めている。

備考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。

教　科	商　　業	科　目	ネットワーク活用	単位数	3
学　年	3　　年	類　型	情報ビジネス科Ｂ類型		

教科書（出版社）	ネットワーク活用（実教出版）
副教材（出版社）	
授業の概要	ビジネスに携わる者としての視点や資質を養えるように、電子商取引に関連した内容だけに特化せず、社会的な動向や技術の発展，新しいビジネスのかたちについて学ぶ。
授業の目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスにおけるインターネットの活用に必要な資質・能力を育成することを目指す。

年間学習計画		学習内容（単元・項目）	学　習　目　標
	1学期	1章　情報通信技術の進歩とビジネス 2章　情報コンテンツの制作	・インターネットを活用したビジネスを展開する際に留意すべき個人情報や知的財産の保護の概要を学び、その重要性を理解している。 ・インターネットを活用したビジネスに関する法規やガイドラインの概要を学び、その必要性を理解している。 ・図形と静止画の情報コンテンツについて、利用方法や表現方法などの基礎的な知識を理解するとともに、それらを作成・編集することができる。
	2学期	3章　企業情報の発信と Web デザイン 4章　インターネットと情報セキュリティ 5章　電子商取引とビジネス	・ Web ページの制作とデザインについて理解するとともに、 一般的な Web ページ制作手順を理解している。 ・CMS を利用する意義や利点を理解するとともに適切に用いて、Web サイト構築をすることができる。 ・インターネットの仕組み、ビジネスにおいてインターネットを活用する利点及びインターネットサービスプロバイダの役割と業務について理解している。 ・企業間取引、企業対消費者間の商取引について学習し、情報通信ネットワークを活用したビジネスについて理解している。
	3学期		・電子商取引を行うためのシステム構築方法を理解するとともに、Web ページ作成ソフトウェアやフリーソフトウェアを使って構築することができる。 ・新たなビジネスの創造について進化する AI の活用方法について理解している。

観点別評価	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	ビジネスにおけるインターネットの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	ビジネスにおいてインターネットを活用することに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスにおけるインターネットの活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

備考	学期ごとに３つの観点に基づき観点別学習状況を、Ａ・Ｂ・Ｃの３段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに 100 点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。

教　科	商　　業	科　目	ネットワーク活用	単位数	3
学　年	3　　年	類　型	情報ビジネス科Ａ類型		

教科書（出版社）	ネットワーク活用（実教出版）
副教材（出版社）	
授業の概要	ビジネスに携わる者としての視点や資質を養えるように、電子商取引に関連した内容だけに特化せず、社会的な動向や技術の発展、新しいビジネスのかたちについて学ぶ。
授業の目標	商業の見方・考え方を働かせ，実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスにおけるインターネットの活用に必要な資質・能力を育成することを目指す。

年間学習計画		学習内容（単元・項目）	学　習　目　標
	1学期	1章　情報通信技術の進歩とビジネス 2章　情報コンテンツの制作	・インターネットを活用したビジネスを展開する際に留意すべき個人情報や知的財産の保護の概要を学び、その重要性を理解している。 ・インターネットを活用したビジネスに関する法規やガイドラインの概要を学び、その必要性を理解している。 ・図形と静止画の情報コンテンツについて、利用方法や表現方法などの基礎的な知識を理解するとともに、それらを作成・編集することができる。
	2学期	3章　企業情報の発信と Web デザイン 4章　インターネットと情報セキュリティ 5章　電子商取引とビジネス	・Web ページの制作とデザインについて理解するとともに、一般的な Web ページ制作手順を理解している。 ・CMS を利用する意義や利点を理解するとともに適切に用いて、Web サイト構築をすることができる。 ・インターネットの仕組み，ビジネスにおいてインターネットを活用する利点及びインターネットサービスプロバイダの役割と業務について理解している。 ・企業間取引、企業対消費者間の商取引について学習し、情報通信ネットワークを活用したビジネスについて理解している。
	3学期		・電子商取引を行うためのシステム構築方法を理解するとともに、Web ページ作成ソフトウェアやフリーソフトウェアを使って構築することができる。 ・新たなビジネスの創造について進化する AI の活用方法について理解している。

観点別評価	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	ビジネスにおけるインターネットの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	ビジネスにおいてインターネットを活用することに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び，ビジネスにおけるインターネットの活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

備考	学期ごとに３つの観点に基づき観点別学習状況を、Ａ・Ｂ・Ｃの３段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに 100 点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。

教　科	商　　業	科　目	ネットワーク管理	単位数	2
学　年	3　　年	類　型	情報ビジネス科		

教科書（出版社）	ネットワーク管理（実教出版）
副教材（出版社）	
授業の概要	情報通信ネットワークを活用して、ビジネス活動を効果的に行う上で、情報共有が担う役割の重要性や、情報通信ネットワークの形態や特徴、ネットワークを構成する機器等についても理解させることで、情報セキュリティを管理する上で必要となる基本的な知識をもとに、起こりうるリスクやその予防と問題発生時を想定した適切な対策について、設計・構築・運用を身に付けさせる。
授業の目標	1　商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目指す。 2　情報資産を共有し保護する環境の提供に必要な資質・能力を育成することを目指す。

年間学習計画		学習内容（単元・項目）	学　習　目　標
	1学期	第1章　企業活動と情報通信ネットワーク 第1節　情報資産共有の重要性 第2節　情報通信ネットワークの形態と通信 第2章　情報通信ネットワークの設計・構築と運用管理 第1節　情報通信ネットワークの設計方法 第2節　情報通信ネットワークのしくみと通信方法 第3節　ネットワーク機器 第4節　情報通信ネットワークの構築方法	・情報通信ネットワークを活用してビジネスに関する情報やハードウェアなどの情報資産を共有することの重要性を理解する。 ・情報共有の重要性について、情報通信ネットワークを構築し、情報資産を共有して企業活動を展開している具体的な事例と関連付けて理解する。 ・情報通信ネットワークに対する要求を分析し、ネットワークの構成、運用計画の策定など情報通信ネットワークを設計する基本的な方法や構築するため必要なハードウェア、情報資源を共有するためのソフトウェアなどの導入や設定方法について理解する。
	2学期	第5節　情報通信ネットワークの運用と障害対策 第6節　システム監査 第3章　情報セキュリティ 第1節　情報セキュリティ管理の目的と重要性 第2節　人的対策 第3節　技術的対策	・管理ツールやセキュリティポリシーによるネットワーク管理やユーザ管理などの運用管理の技法を習得する。 ・システム監査の実施手順や監査技法について理解する。 ・情報資産に対する脅威やリスクをしっかりと理解し、情報セキュリティ管理の目的と重要性について理解する。 ・情報セキュリティ啓発活動の重要性、内部不正や人的ミスによる情報の漏洩を防止する対策、マルウェア等への感染を予防する方法や技術的対策について、具体的な事例と関連付けて分析し、理解する。
	3学期	第4節　物理的対策	・地震、火災、落雷、停電など災害や事故の予防と初征史和想定した対策、機器の故障など物理的障害の予防と情報セキュリティ上の問題の発生を想定した対策について理解する。

観点別評価	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	情報資産を共有し、保護する環境の提供について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	情報資産を共有し、保護する環境の提供に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、情報資産を共有し、保護する環境の提供に主体的かつ協同的に取り組もうとしている。

備考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。